



おおの 大野 よしひろ 良弘 議員

ペットが主役の  
交流施策を望む

# 問 林野火災の課題への取り組みは

## 町長 予消防対策協議会で役割を確認

### 林野火災の状況

問 林野火災の事例は。

町長 北見地区消防組合が発足した昭和47年から今日までの52年間で6件発生している。

出火原因は、子どもの火遊び、タバコの不始末、枝やごみ焼きの飛び火などである。

時期は、4月から7月の間で、春先の火災が多くある。

問 他町の林野火災から学ぶことは。

町長 オホーツク管内の消防署長などの研修会において、令和6年7月に発生した置戸町の林野火災についての事

例発表と情報交換を行っている。

その中で多くの関係機関との連携や円滑化のために現場の調整役となる担当者を選任することの重要性が報告された。

また、早期の空中消火活動の要請、火災現場までのルートの把握などの対応の必要性が示され、それらの知見を今後の参考にしたい。

### 林野火災の課題

問 林野火災の今後の課題は。

町長 携帯電話や防災無線がつかない場所における通信手段の整備や消火活動が長期間になる場合を想定した炊き出しなどの支援体制の確保などがある。

### 防災訓練

問 林野火災を想定した防災訓練は。

町長 林野火災に特化した訓練を検討したこと

はない。

町林野火災予消防対策協議会の中で林野火災の状況を見ながら役割の確認をしていく。



令和6年の置戸町の林野火災消火活動

### 問

ドッグラン整備の  
検討状況は

### 町長

必要性に乏しいと  
判断している

### ドッグランの

#### 検討状況

問 ペットを通じた交流人口の増加策としてドッグランの検討状況は。

町長 オホーツク管内でドッグランが設置されているのは8か所あり、そのほとんどが道の駅に併設されている。

主に旅行、観光、キャンプなどの目的でペットと共に立ち寄り寄ることができるものと認識している。

ペットを家族として迎えられている方もいるが、本町が交流人口の増加施策としてどのような手段をとるか、さまざまな選択肢があるなかで、本町の実態

に合ったものを具現化したいと考えており、ドッグランは必要性に乏しいのではないかと判断している。

### ペットは家族

問 ペットは家族との認識のもと、自動車運転免許証のような様式でペットの住民票を交付している自治体があるが、そのような取り組みをする考えはないか。

町長 これまでそのような要望も寄せられておらず、事業効果を研究する必要もあることから、現段階では、狂犬病予防法に基づく飼い犬の登録と鑑札の交付という従来への対応を継続していく。



大野議員の一般質問を視聴できます